

♪ 2021年度 **poco a poco** ♪

Nr. 6 2021年6月2日(水) 文責:プファイル・辰巳

♪ かたつむり・カエルの合唱……

日本は梅雨の季節です。私の6月(日本)のイメージは、「水田に植わった稲の苗」と「カエルの鳴き声」なのですが、みなさんはいかがでしょう。

さて、天候不順が続いた5月が終わり、ようやく晴れ間も多くなってきました。今週末は夏休み前の最後の4連休になりますね。レストランやカフェの外にテーブルが並び始め、コロナ感染防止対策の解除も相まって、うれしい気分になりますが、油断は禁物。マスクや手洗いなどの基本の感染防止は、怠らないようにしましょう。



音楽こぼれ話 <楽譜出版のお話 ④

あこがれのペータース版 >

誰がペータース版の楽譜にあこがれていたかという、私です。

右のロゴマークを見かけられたことはあるでしょうか。現在でもそうだと思いますが、この美しい



ロゴのついた輸入盤の楽譜は、日本では大変高価で、とても音楽学生が手を出せるものではありませんでした。生まれて初めて旧東ドイツ・東ベルリンの楽譜屋さんで足を踏み入れた時(東西ドイツに分断していた時代からドイツに居たことがバレましたね。)、ペータース版の楽譜を手にして感動したことを覚えています。買った楽譜はバッハの「クリスマスオラトリオ」だったと思います。シューベルト歌曲集、ブラームス歌曲集、シューマン歌曲集……以来ドイツ人作曲家の歌曲集は、このペータース版にお世

話になっています。

ドイツ楽譜出版の老舗の一つであるペータース社は、前回紹介したブライトコプフ&ヘルテル社と同様、ライプツィヒで創業されました。Hoffmeister と Kühnel という二人の作曲家が1800年に起業したのですが、1814年には書籍販売業を営んでいた Carl Friedrich Peters が所有者となり、以来 C. F. Peters の名を冠するようになりました。

20世紀に入って、所有者が変わったり、ナチスドイツに印刷所が没収されたり、東西ドイツ分断中は印刷所もライプツィヒと当地フランクフルトに分断されていた時期もあつたりしました。紆余曲折を経て、21世紀になるといくつかの楽譜出版社を吸収合併し、Edition Peters Group となり、ロゴにあるようにロンドンとニューヨークにも拠点を持つようになりました。2014年からは、創業地のライプツィヒが再び本社となり、今日に至っています。

ちょっとだけ 演奏会情報

~どうなる、夏の音楽祭 !?~

アルテオパーやフランクフルトオペラが休業となって久しく、最後にコンサートを楽しんだのはいつだったか分からなくなりました。夏休みまでの今シーズンは、まだ無理があるようですが、各地の夏の音楽祭は、コロナ感染防止対策をしながら、準備が進められているようです。ヴィースバーデンを中心とするラインガウ地方の各地で開催予定の「ラインガウ音楽祭」についての情報をお知らせします。



Rheingau Musik Festival

(2021年6月26日~9月5日)

Webseite rheingau-musik-festival.de

チケット予約およびインフォ電話 06723-602170

クラシックコンサートはもちろん、ジャズやオープンエアコンサートなど盛りだくさんのプログラムです。詳しくはウェブサイトをご覧ください。